平成２８年度　第２回　山梨県文学館協議会　会議結果記録

日　時：　平成２９年３月８日（木）

場　所：　県立文学館研修室

参加者：

●委員　渡邉慈仁、堀内美恵子、蔦木雅清、向山文人、植松裕二
池田尚隆、廣瀬孝嘉、早川史香、日向俊子、乙黒幸江、清水千春

●県教育委員会学術文化財課　原主事
●県文学館　三枝館長、上島副館長、高室学芸幹、大関総務課長、保坂学芸課長
飯沼資料情報課長、望月総務課主幹、中野学芸員（学芸担当ﾘｰﾀﾞｰ）、
梶原主幹・教育主事（教育普及担当ﾘｰﾀﾞｰ）、
水上副主幹（資料情報課ﾘｰﾀﾞｰ）
●指定管理者　岩野ＳＰＳやまなし支配人、金原ＳＰＳやまなし副支配人

議事
（１）平成２８年度事業実績について
（２）平成２９年度事計画について
（３）その他
司会　上島副館長

議事録
◎会長挨拶
◎館長挨拶
◎事務局職員紹介
◎議事（議長は規定により会長が務めた）
●事務局から会議資料により、議事（１）～（２）を説明

●会長（議長）
事務局からご説明を頂きました。盛りだくさんの企画でこれは準備がいつも大変だなと思いながら聴いておりました。やることは問題ないと思いますが、やるまでの準備が恐らく大変だったのではないかと思います。それでも、たくさんの人がおみえになってくれる事で、自分たちの苦労が報われるのではないかと感じています。何か事務局の説明についてご質問、ご意見、感想等でも構いませんので、何かございました

ら　お願いします。

２８年度の事業実績を基盤に２９年度の事業計画までの説明をして頂きました。そして、賑わい作りのお話もして頂きましたので、特にどれからという指定はいたしませんのでご発言をお願いしたいと思います。

●Ｄ委員

２９年度事業ですが、冒頭の挨拶で館長も仰られましたが、私たちのこの協議会の意見が反映されているのが随所に感じました。夏目漱石、文学館と美術館の連携、それから、若い作家のデビューで人気のコミック誌とのコラボレーションなど、(山本)周五郎の初狩ファンクラブとの連携など、とてもいいと思います。それから関連して一言ですが、「津島佑子展」これもスケールが大きな作家の企画展ということで太宰治の娘ということもあって非常に楽しみな企画であります。

ただ、こういう言い方が良いのかちょっとやっぱり作家としてはスケールが大きいのですが、一般的には地味というかそういう部分があるのかもしれません。是非、大勢の来館者が来るような仕掛けというのを、津島佑子展もまたこれから細部は考えていくのだと思いますけれど、例えば映画、周五郎の時に名作映画鑑賞会、周五郎原作映画をやるということですが、津島佑子展の場合、例えば太宰治原作の映画、最近でも「ヴィヨンの妻」とか「パンドラの匣」とかあったと思いますが、お父さんの方の関連の映画を絡めるとか、そういうやり方もあるのかと、一言申し上げさせて頂きました。

●会長（議長）

山本周五郎、それから津島(佑子)さんの企画展があるということですが、津島さんの企画展については仕掛けを考えて頂いて、例えば太宰の映画なんかもあるじゃないかというアドバイス、ご提案を頂きました。その他、何かございますか。

●Ｅ議員

ちょっと４点ほど感想を含めてお話をさせて頂きたいと思います。２８年度分について２点、２９年度について２点です。

まず、２８年度の「北杜夫展」ですけれど、これを私も拝見させて頂きまして、実は、北杜夫さんが県立精神病院に勤務経験があるということを初めて知りまして、非常に身近に感じました。そして、私の家の近くの甲府市里吉の県庁の分館に病院があったことを初めて知りまして、非常に感激した覚えがあります。ちょうどこの時、先ほど高室さんも仰っていましたが、ちょうど映画をやっておりましたけど、私は映画を観られなかったのですけれども、この展示会を通して「僕のおじさん」という本を早速買って読んだということがございますので、非常に参考にさせて頂きました。それから今、芥川賞、直木賞の小説を味わうということで、資料展をやっていらっしゃいます

けれども、これも拝見させて頂きまして感想を述べさせて頂きます。

初版本を中心に非常に趣のある単行本ばかりでした。中には、古本屋の値段が付いているものもあって非常に収集の苦労が見て取れる、ということを感じております。それから、資料の一覧表をもらってきましたけれど非常に見易くて、非常に良いことだと思っております。それから、文学館のミュージアムショップの書籍コーナーで昨年上期の受賞作品が販売されていたのは、この展示企画と連動していて大変良いことだと感じました。一つお伺いしたいのは、初版本が基本なのかというところを改めて後でお答え頂けたらと思います。

あと、ちょっと残念な点につきましては、直木賞を受賞した黒川博行さんの「破門」が、今ちょうど映画でやっているんですけれども、このあたりちょうどやっているので、上手い具合に上期の展示ものとはちょっと違ってはおりますが、こういうところも柔軟に考えて紹介された方が、より身近に感じられたのではないかと感じました。

それから、第１７回の直木受賞をしながら辞退した、山本周五郎さんの「日本婦道記」これが受賞リストから外れていたのがちょっと私、個人的には非常に残念だと思いました。本人が辞退されたのでおそらくこの一覧表からは外されたのではと思いますけれども、私もこの本を読んで非常に感激した思いがありますので、できれば一緒にこの中に受賞を辞退したけれども、ということで紹介して頂ければ、より良かったと思います。せっかくこの「日本婦道記」は、文学館のミュージアムショップの書籍コーナーで販売しておりますので、そういうことも含めて特異なケースではありますけれども、そこも含めて展示された方がより面白かったのではないかと思いました。

それから、この直木賞、芥川賞については、ツイッターを通じて情報発信もされていまして、非常に面白いですよという風な文章が書かれていましたが、どういう風に面白いのかというところは、ちょっと具体性に欠けていたのかなと思いました。

それからこの後、第２弾として直木賞、芥川賞の受賞作品と取りあげると思いますけれども、できれば私の方の希望ですけれども、３月からの展示対象となっている高村薫の「マークスの山」これ、北岳や芦安村、早川町が舞台に出てきますので、是非その辺を全面に出されれば、より県民としては身近に感じられるのではないか、足を運ぶきっかけになるのではないかと思います。

それから、乃南アサの「凍える牙」これについても、じつは山梨県警の元鑑識課員という人が登場してきて非常に重要な役割を担っています。これは、狼が人を襲っていくという物語ですが、その狼を調教したのが元山梨県警の鑑識課員という設定になっておりますので、この辺も読んでみて非常に山梨にもこんな接点があるのだなというとこで驚いたのを覚えておりますので、そういうところでも非常にアピールできる点ではないかと感じましたので、その辺もお願いしたいと思います。

それから、２９年度の山本周五郎展ですけれども、今、映画などで「君の名は。」が非常にヒットしましたが、あのようにヒットした映画は聖地巡り、聖地巡礼という

のが非常に流行っているのですが、せっかく山梨に縁のある山本周五郎さんですので、ゆかりの地を具体的に示す資料も展示して頂けると、非常にまたここ(文学館)に足を運ぶきっかけになるのではないかと思います。山梨県の文学者が、聖地を文学館に来れば、こういう資料があって、参考になりますということも一つ大きな武器になるのではないかと思います。

それから、上映する映画が２つあるということでありましたが、どんなものをされるのか非常に関心を持っております。

それから、作家のデビュー展ですけれども、是非、作家さん、辻村(深月)さんと神永(学)さんはやって頂きたいと思います。じつは先日、県立図書館主催の作家の講演会を拝聴しに行きました。「八日目の蝉」や「紙の月」などで知られる角田光代さんの講演会でしたけれども、非常に作家さんならではですし、非常に面白い講演会で、甲府駅の北口という立地条件でもありましたが、非常に大勢の方が楽しんで帰られたと思います。後日、山日新聞にそういった記事も出ていましたけれども、やはり紙面だけではかり知れない面白さが実際に聴くとあると改めて感じたので、そういう一流の作家の方を一人でも多く呼んできて頂いて、交通の便の悪いところですけれども、だからこそ尚そうした方々を連れてきて、一人でも多くこの文学館に足を運んで貰えるようなきっかけ作りになればと感じております。

それから、長くなって申し訳ありませんが、県立美術館と共同企画展を今度初めて企画されるということですけれども、これの企画を見て思ったのですが、同じ県立の施設であれば、県立博物館とのコラボレーションも面白いのではないかと思います。

県立博物館は武田氏を中心とした博物館ですけれども、その武田氏を書いた小説というのは非常に沢山あると思います。有名なところでは、新田次郎、池波正太郎、松本清張、最近の作家では伊東潤とか井沢元彦とか富樫倫太郎とか、地元では元山日新聞記者の江宮(隆之)さんとかが書いていらっしゃいますので、是非そういったものをやっていただければ、文学のファン、プラスアルファ歴史ファンも足を運ぶきっかけになるのではないかとそんなことを感じております。以上、ちょっと長くなりましたが感じたことを話させて頂きました。ありがとうございました。

●会長（議長）

造詣の深い観点から多岐に渡ってご提言を頂きましたが、せっかくのご提言でございますので、事務局から何かお答えできることはありますか。

●事務局

それでは、今のご質問に対して資料の収集の観点から初版本が基本なのか、というご質問がありました。初版本を基本として収集しております。しかし、なかなか古いものですと、初版本が手に入らないことが多いので、出来るだけということです、一

般の書店では手に入れることがほとんど出来ませんので、古書店から初版本を探して購入するということをやっております。

それから、資料紹介の事だと思うのですが、今、芥川賞・直木賞の作品を閲覧室の方で紹介しております。その中で、山本周五郎が辞退したという話がなかったというご指摘を受けました。仰るとおりだと思います。実は、準備の段階でそのことも、ご紹介しようと思いましてキャプションも作ったのですが、次回の特設展、山本周五郎展の時に、やはりその時に合わせまして、資料紹介を閲覧室の方でも行う予定になっております。その時に、山本周五郎展に合わせてそのようなこともご紹介したいと思っておりますので、ご了承頂きたいと思います。以上です。

●会長（議長）

その他、事務局の方から何かございますか。

●事務局

ありがとうございます。たくさんのご意見頂いて、本当にありがとうございます。

山本周五郎の時にはゆかりの地を具体的に示すという、仰るとおりと思います。地元の高校の文芸誌の中で、初狩が実は出生地であることが明らかになったということで、本県において、そういう成果が挙げられたということを含めてですね、周五郎のルーツというところを、本県ならではの形でお示しできるようにしたいと思っております。

夏の特設展の講演会ですとか、また周五郎展に絡んでの映画会のことも計画を詰めているところでございますので、間もなく順次、広報して多くの方においで頂けるように、現役の方においで頂いて、そのデビューについて語って頂くということは、是非実現したいと考えております。

まず今年、２９年度に美術館とのコラボということでやってみますが、仰るような形で博物館ですとか、色々な施設との可能性を、アンテナを張りまして、試みて行きたいと思います。色々とご提言を頂いて、本当にありがとうございます。

●会長（議長）

関連した何か(意見は)ございますか。

●Ｃ委員

山本周五郎の特別展、特設展に対する一つの要望というような考え方ですけれど、よろしいでしょうか。じつは、「中央線」の編集人もしておりまして、先日、３月２０日ですね、執筆者と懇親会を大村博士としたわけですけれども、たまたまそういう人たちの集団ですので、こういう質問をしました。「(大村)先生は、どういう文学作品

を拠り所に頑張って来られたのか。」と、そうしたら私は三つあると。一つが山本周五郎だと、もうひとつが司馬遼太郎と、もう一つが遠藤周作だと、全部読んだと。山本周五郎については、「腹中書有り。」という言葉が心に残っていると。理屈っぽいのが嫌いだということで、非常に分かり易く好きだと。それから、司馬遼太郎の作品は文章的に好きで、表現が好きだと。で、遠藤周作の「沈黙」も好きだと、そういうことを言って頂きました。たまたまなぜこれを出したかというと、偉大なノーベル賞作家、博士を生み出した土壌としての文学作品を保管、展示している文学館の館長さんと対談できれば良いかなということで提案させて頂いたわけです。非常にシンプルな考え方というか、分かり易いことが好きなんだと言っておりまして、何らかのインパクトが与えられるのではないかという思いでご提案させて頂きました。

長く話はしなかったのですが。とりあえず聞いたら自宅に呼ばれまして、１０人ぐらいで話しをしたのです。「中央線」という総合雑誌の発行人を引き受けた以上、どういう考えを持つべきかと、内容を教えて欲しいということで、最初は私、一人だけだったのですが、それは申し訳ないなと思って、何人か執筆者をお呼びしたところ１０人くらい集まりましたので、１０人で集まってその中で色々な質問をされたのですが、私はどんな作品が好きですかと聞いたら、その三つを挙げられたということで。

なるほどと、非常に分かり易いなと感動しましたので、できれば今回たまたまこの中で、山本周五郎の特設展があると言うことで、対談が出来れば素晴らしいなと思いまして要望させて頂きました。以上です。

●会長（議長）

具体的なご提言を頂きました。大村先生と館長の対談が実現できたら、面白いだろうなということでございますが。大村先生は、何冊ものエッセイを書いていらっしゃって、大変な造詣の深い方ですので、どんな作品の一節が飛び出してくるのか、そういう風なものに影響を受けて、第２の大村先生のような方が出てこないとも限りませんので、そのようなことは良いのかと思います。またお考え頂ければと思います。

その他ございますか。具体的な提案が続いた後でございますが。

●Ｊ委員

山本周五郎展の特設展の事が出ていますけれども、常設展示室には、飯田蛇笏、龍太の部屋が作ってあります。今年は飯田龍太没後１０年という事で、私は何か文学館で企画があるのかと期待をしていたのですが、展示を見せて頂いたけれども没後１０年の幾点かの・・没後１０年に合わせたものは出ておりますけれども、特に特別の事がないのかと思った点が１点です。それから、先日そういう意味で関係の方たちが、この文学館に非常に大勢全国から集まる機会があったのですが、そういう時にも「今年はないのですね。」というような事を仰っていた方もあって、そうですねというこ

とで、私も改めて今日、二階(展示室)を見せて頂いたのですけれども。ちょっと私は期待をしていたんだけれども、大きい企画展はなかったのだなと、没後１０年だったからかな、蛇笏の没後３０年の時は、結構全国から集まった大きな特設展があったと思いますが、１０年だったからだろうか、でも特別室があるから、やっぱり１０年のけじめで何か欲しかったという事が１点あります。

それから、もう１点、前に館長さんがご説明になって、私も今度はっきり聞かれた方にお答えできなかったのですが、私もこの庭が好きで時々散策をするのですが、続けて去年の暮れの寒い日だったと思うのですが、ここを訪れたご夫婦の方と、それから後、お二人の方に先日までにお会いしまして、そこの文学碑ですね、そこが読めないと、なんと読むのですかと聞かれて、一応私もお答えをしたのですが、どうしてここにこういうのを立ててくれないのかという、みんな俳句に詳しい人ばかりじゃないでしょうと言われ、私もお話しておきますと申し上げておきました。ほとんどの人が読めないと思います。それでこちらのところにも、彫ってある文字があるのですけれど、光線の加減で彫りも薄いので、何と書いてあるのか読めないということです。せっかくあの文学碑をあんな立派なものを作ったのに、ほとんどの人が読めないということで、素通りをしてしまう。極端なことを言うと、なんの碑が立っているのかわからないという人も、結構大勢いらっしゃるのではないかと思うのですが。色々なお考えはあると思うのですが、あそこに「こういう碑ですよ。」というものを立てて、どうして悪いのかと言うことを、すごく疑問に思います。是非そういう要望もあるということを、またお考え頂きたいと思います。

●会長（議長）

今、２点ご意見がございましたが、蛇笏、龍太の特設コーナーを設けたらどうかと、もっと充実させたらどうかということだとか、文学碑を読めるようにパネルの様なものがないかということですが。前回も出たと思うのですが、はい、事務局から簡単にお願いします。

●事務局

申し訳ありません。文学碑の表示の事は前回もご意見を頂いたところで、まだそれをお答えする形になっていなくて申し訳ございません。今の対応の仕方は、碑についての読みと蛇笏、龍太はこういう人です、こういう経過で碑ができましたという紙のものは、エントランスでご希望の方にお配りしているものは用意しておりますけれども、もうその碑の前に立った時にお分かりになり易いようなものは、仰るとおり必要かと思います。あまりチャチなものを慌ててというのも難しいので、考えたいと思っております。

それから、飯田龍太の没後１０年にあたっては如何かという話でございます。展示

事業を色々考えます時に、色々な作家の区切り目の年がいつかという事も、私ども情報を集めながら展示事業を計画しております。当然、龍太の没後１０年という事もその話題の中では議論の中で話題にいたしました。けれどもなかなかその他の、周五郎も没後５０年だねとか、そのような組み合わせの中で、大きな展覧会とか事業という形をちょっと組むことが出来なかったというのが実情でございます。

これまで蛇笏、龍太については近年ですと平成２０年に飯田龍太展を行い、２２年に井伏鱒二・飯田龍太展を行い、２４年に飯田蛇笏展を行い、２７年に俳句百景ということで「雲母」創刊１００年と銘打った展示をしておりまして、ここ数年の中では、比較的何度か続けて行ってきたかと思いまして、また将来、例えば龍太１００年とか、そういう年もまた近く訪れて来ることになりますので、ちょっと長期的な目も持ちながら、計画位置づけたいと思いますが。ちょっと、とりあえず、今年の没後１０年に当たりましては、１０年という区切りということは、あのような形で、常設展の中で、年間通じてお示しして行きたいというのが現在の計画でございます。

●会長（議長）

よろしいでしょうか。

ここへ行けば解説のものがもらえますという、そのような案内はありますか。エントランスへ行くとこのような案内がもらえますという、そうですね。なにか、道しるべの様なものがあればいいかと思いますが。また、お考え頂ければと思います。その他ございますか。

●Ｉ委員

感想のようなものなのですが、２８年度の報告を頂きまして、２９年度の事業計画ということで、決して多いとは思えない職員数でこれだけ色々な形でアクセス、色々な方法を取りながら、このような文学の紹介をしているということは大変すごいなと、私個人的には思いました。

来年度の２９年度の計画ですが、ちょっとワクワクするような楽しい企画が挙げられていまして、本当にＰＲをしながら皆さんに来て頂ければと思いました。せっかくこういった役を仰せつかったものですから、私も退職してから参加するサークルとか講座などに、文学館から頂いたチラシを持って参加とか紹介などを呼びかけていますが、なかなかやっぱり知らない方が大変まだ多くて、まだまだなのかと自分自身思うことがあるのですが、これは２８年度の事業ではないのですが、２７年度の事業の時に、やはりそういう事業があると紹介した４月に行いましたレミオロメンの藤巻さんをお呼びして行いました創作活動、文学活動の事業に、たまたま声をかけた方が、初めて文学館に足を運んだと。そしてその楽しさ、面白さにすごくハマりまして、そして翌年、短歌教室に応募したということを話していました。

ですので、やっぱりこうやって地道に紹介して呼びかけなど、ＰＲの仕方ももう少し工夫が必要だと思うのですが、呼びかけると本当にこうした文学館に足を運んだ事がない方も、こうやって文学の魅力にハマって次回から足を運んでくださるということがあるのだなということが、その話を聞きながら思いました。

ですので、このような本当に県民の皆さんがよく敷居が高いと言われますけれども、気軽に参加してくださるような企画をして頂いて、もっともっと文学館の魅力を発信できたらいいなと思いました。特に、先ほども映画とか出て参りましたけれども、遠藤周作の「沈黙」が映画化されて話題になっていると思うのですが、私は大好きなので、そういった文学作品を扱った映画とか、あるいは文学、それから音楽ということも、県民の皆さんにスーッと入っていけるような、そういうものを使って文学の魅力、楽しさ、日本文化という形で導入していったら良いなと思いました。

●会長（議長）

ありがとうございます。文学がより身近に感じられるような仕掛けといいますか、そういうものを今後も考案して頂きたいということだったかと思いますが。

その他、まだご意見頂いてない方。順によろしいですか。

●Ｈ委員

三つほどうかがいたいこととか、お願いしたいことがあります。

一つは、私は作家のデビューに非常に期待して、２９年度の特設展ですか、期待したいなと思いまして、特に現在活躍中の作家の方々なんかをお呼びしたり、取り上げたり、あるいは、私は読んだことがないのですが、人気のコミックとコラボレーションするなどという風な、こう若い人たちを呼び込むような事をして頂けるのがとても良いと思い、期待しております。それと関連してですけれども、その中では取り上げることは出来ないかも知れないのですが、こんな事はどうだろう、ということが一つありまして、中学生ではちょっと無理かも知れないのですが、高校生ぐらいだったら、一番文学と触れ合うのは国語の教科書だと思っておりまして、国語の教科書に扱われる文学作品というものを、学生たちがどう思っているのかということから入っていくという、例えば辻村(深月)さんとかそういう方々が、今の教科書の文学作品どう思うとか、自分たちの作品を扱うことは出来ないかというような事を話して頂いたら面白いと思ったり、高校生が図書館の委員さんだったら、そのくらいは発言できるのではないかと思うのですが。自分たちがどのような作品を教科書で扱って欲しいという発言を求めてもらっても面白いのではないかと思っておりますので。今回、それが出来るかどうかわからないのですが、将来そのような企画も考えて頂けたらと思います。それが１つです。

それから、ちょっと関連しているかわからないのですが、資料の９ページにありま

す、教師のための学習会(特設展 先生のための学習会)の参加人数が少ないと私は思いますけれども、多いか少ないかは考え方によるかも知れないですれども、先生方に、是非学生さんたちと一緒に、自分たちが学んでいる、あるいは教科書で扱っている文学作品をどう思うかとか、こういうのが良いのではないかとか、話をするようなことを先生方と話をしても面白いのではないか、そういうことも含めて、先生方のための学習会をもっと増やして欲しいということを、まとまりがないのですが、この辺を充実して頂けたらと一つ思いました。これは難しいのかなとは思いますが、是非、先生方、学生さんへのアプローチを是非お願いしたいと思いました。

もう一つは、私は一宮町の在住なものですから、今度、漱石の企画展を、常設展をされるようなのですが、一宮町にあります青楓美術館は、山梨県の事とは関係ないですけれども、青楓は漱石の装丁もやっていますし、漱石と非常に関わりの深い方でもありますので、是非、青楓美術館ともコラボレーションして頂けたらなと思いました。

●会長（議長）

事務局から何かお答えできることはございますか。

●事務局

はい、ありがとうございます。教師のための学習会ですけれども、義務教育課、高校教育課に協力を得まして、全ての小中・高校の先生方にご案内を出しまして、今年(去年)２回だったのを今年は３回に増やしました。７月の場合にも、２６日という夏休み中に開催したらどうかという点も試みたところです。７月は宮沢賢治展をやっていましたのでそれに関わっての学習会、それから１０月は北杜夫展での学習会を行っております。そして、こういう一般の先生方に学習会に来て頂くとともに、資料の１１ページ(各種団体への普及活動)を見て頂きますと、全ての小中学校の校長会の方にも是非ということで、教師のための学習会のご案内の方もしておりますし、その他、図書館の司書の先生方、また図書館の研究の先生方にもお話をして、是非文学館を利用して頂きたい、お話を幅広くしていく取り組みを現在しているところです。以上です。

●会長（議長）

はい、文学する心を育てる、子供たちを育てる意味でも、その指導者である先生たちに訴えることはできないかと、そういう機会をできるだけ多く持って欲しいと、そういうことだったと思いますが、宜しくお願いしたいと思います。では、池田先生・・・

●事務局

すみません、今の貴重なご意見頂きましたけれども、３番目に頂きました一宮町の青楓美術館にお持ちのものをということで、お話でしたけれども、仰るとおり津田青楓は、夏目漱石に絵画を教えた人ものでもありまして、非常に漱石の近くにいた人ですので、周辺の人としては重要な人物だと考えております。それで、今回の常設展示室での漱石の文学と美術ということでは、やはり外せない人だとは思っております。今、美術館で所蔵しているものとは別に調査を進めておりますので、今年の、今回での展覧会での展示が叶うかどうかはちょっとまだはっきり申し上げられませんけれども、二人の関係については今後も調査し、また何かご出品して頂けるものがあればお願いしたいと考えております。以上です。

●Ｈ委員

今のお話で、まだ今年の青楓美術館ですね、今年のものに間に合うどうかということだったのですが、例えば合同でできないのでしたら、これの応援企画というかたちで、青楓美術館でこちらがやっている時にするという事はできるのでしょうか。漱石展をやっているから漱石とのことを青楓美術館で、それに関連して展示します。ということはできるのでしょうか。

●事務局

あの、一宮町の青楓美術館の方で独自になさるということは、あちらのコレクションをお使いになられて、展示をされるということについては、当方としては、同時期にそういったことを両館でやっているというのは非常に有り難いことだと思っております。まだこちらからもご先方に、そういったことをまだ投げかけてないところですので、何とも申し上げられませんけれども。

こちらから改めて、近いうちにさせて頂くように致します。

●Ｆ委員

先ほどから伺っていますと、本当に色々な方面に熱心に取り組んでいて、頭が下がる思いがします。来年の企画も、山本周五郎とか津島佑子さんとかその他の面白い、観たいと思うものがありますので、本当に頑張って頂きたいと思うのですけれども、一つだけ思いますのは、やっぱり文学館の中心は展示室の展示だと思うのです。

文学作品の様々な魅力を出すその展示が中心であると思うのです。ただ、文学作品というのはご存じのように展示しても地味ですし、絵と違ってそれだけで完結している訳ではありませんよね。本の見開きのところが出るということだけになってしまいます。前にも申し上げましたけれども、学生を連れてですね、こちらに伺う、それで、学芸員さんに説明して頂くと、本当に知らなかった魅力に気付かせて頂いてとっても楽しいんですよね。そういう案内があると、見開きのところでもここが面白いんだ、

大事なんだというお話をして頂くと本当に楽しいな、気付かなかったなという経験をして帰る。本当にしょっちゅう私なんかそういう経験を持っているんですけれども、何かそういうことをできないか、上の展示をより魅力的なものにするために何かできないか。

例えばホームページに学芸員の方、はじめ文学館の方々が出て、一言ずつ一回に２分とか３分でいいのですけど、今回展示してあるこれのここが面白いんだと、ちょっと細かすぎることとか、マニアックな事とかですね、そういう方がかえってちょっと面白いかも知れないんですけれども、そういうのを出して頂く。最初からそれを用意するのは大変ですからね、期間があるわけですよね、ひと月とか、ふた月とか、期間がある訳ですから、だんだんそれを増やして行くのも面白いと思うんですよね。今週はここを強調したいと思いますとか、ここは皆さんが楽しんでいらっしゃったので、もうちょっとご説明しますとかですね、そういうのを皆さんの顔と声で説明して頂く。展示室の展示の魅力を更にですね、深めて頂くような事をやって頂く。そういうことができないですかね。今、映像が簡単に皆さんに提供できるわけですから。で、実際にこちらの方のご説明を伺いますと、本当に楽しいという経験をしていますからね、そういうことができないかなと、ちょっと思っているところです。

●会長（議長）

はい、ありがとうございます。見どころといいますか、ポイントといいますか、ここが面白いよというところをちょっとこう指摘してもらうと、観るのに楽しい、観るのが楽しい、見落とす事もないということだと思いますが。考えて頂きたいと思います。

じゃ、どうですか。

●Ａ委員

教育普及事業など本当に子供たちのために、たくさんの企画をして頂いていることに感謝申し上げます。年齢問わず、やっぱり人の知性・品性を高めるには純文学というのが一番重要だと私も考えています。そういう意味で、本当に良くして頂いているんですけれどもやっぱり参加、特に郡内とか、地域の方がなかなか足を運びにくいというのもありますので、また是非アウトリーチとか移動のものとか、是非充実、それからこういうものを、各学校の先生方も忙しいということもあったりして、取り入れ難いというところもあるとは思いますけれども、また引き続き広報とか、周知活動の充実の方、宜しくお願い致します。以上で、感想に留まりますけれども、宜しくお願い致します。ありがとうございます。

●会長（議長）

ありがとうございます。アウトリーチなど学校現場からの呼び水といいますかそういう機会になればいいと思います。そんなご意見であったと思います。

●Ａ委員

地方の図書館なんかでもですね、やっぱり入館者を集めたいので色々な企画をしていますけれども、また是非、出張の解説講座等にも、私も皆さんに、各市町村の教育委員会に声を掛けますので、その時には是非文学の解説講座などでご協力頂きたいと思います。宜しくお願いします。

●Ｂ委員

前回の企画展でありました、北杜夫さんの作品展ですけれども、この帰りに解説を丁寧に館内全部して頂きまして、普段一人で観ながら解説を読みながらしますと、時間ばかりかかる割に、十分理解ができないのですが、やはり学芸員さんたちに説明があったら、より深く理解ができると思いましたので、先ほどの先生方のための、館内の学習会ですね、また是非多くの先生方に来て頂きまして宜しくお願いしたいと思っております。

●会長（議長）

ありがとうございます。では、もうひと方でしょうかね、宜しくお願い致します。

●Ｂ委員

２年間この役をね、仰せつかって初めて教育の、例えば普及事業について、これだけ文学館の方で色々な機会を設けて頂いて、利用する学校側の方が、きちっと浸透してない部分があって、ここでも意見を述べさせてもらったのですけれど、例えば資料の１１ページの各種団体への普及活動という形で、前も言ったと思うのですが、私の立場に立つと学校長って興味がないと、はっきり言って下まで浸透しないんですよね。ところが、やはり直接、子どもに教えている国語科の教師とか、図書館の司書なんかまでこういうことがきちっと渡ると、移動文学館のアウトリーチとか出前授業を依頼してみようとか、というところまで広がると思うんですよ。ですから、まだまだこんな風な素晴らしい機会を設定してくださっている、あとは利用するのは学校側だけだということを、この数字からも感じました。

後、キャリア教育の面からもいってインターシップなんかも、高校でこれだけしか利用してないわけですよね、中学校側としては、三日間の職場体験をということで文科省からもいわれていてやっております。そんなことで勿論、地域の図書館でのそのインターシップも良いのですが、このような本格的に文学に触れることができる文学

館でということで、このような授業についてもまだまだ多くの先生方に広めて、それをいかに子どものために使うかという、まだまだ普及活動が必要だと思いますので、こういう立場でこの会に参加させて頂いたことをきっかけに、これからも教育関係の方で多く利用することによって、子供たちに少しでも文学に近づけさせたいと、まだまだその余地があるということを、この数字から感じました。

後、個人的な意見ですけれど来年度、漱石の常設展がということで、私、漱石の「書」も好きなんですけれど、「書」の方についてはあれなのでしょうか。美術との関係で、「書」の展示もあるのでしょうか。

●事務局

はい、確かに漱石の「書」は非常に立派で、幾つか残していてそれが掛け軸やら、色紙、短冊などに残っているものを目にしますけれども、今回の常設展のところでは、それ程大きな「書」というのは展示の予定はございません。

●Ｂ委員

ありがとうございました。

●会長（議長）

ありがとうございました。一通り委員の方々にお話を伺いました。まだ、言い足りないと言う方はおりますか。

●Ｋ委員

すみません。ここに出された意見については、すぐできるものとできないものとがあると思うんですよね。できたものと、できないもの、検討中のものとか、そういうものを具体的に、できる範囲で次回に発表してもらうとかそういう形にしないと。今回のように前回出た意見と全く同じ意見が出ているわけですから、そういうことがないように是非お願いしたいと思います。以上です。

●会長（議長）

はい、注文がございました。それ以外、何かございますか。よろしいでしょうか。

意見も出尽くしたようですが、今回は具体的なご意見をたくさん頂きましたので、その分、事務局はたくさん宿題を頂いたような感じだと思いますが、励みにして頑張って頂ければと思います。魅力ある展示の開催や、学校等の団体利用促進を図ると共に、そのＰＲに努めてですね、あるいは指導者への周知の機会だったり、参加体験型の企画を設けたり、学校教育の表現活動の支援をしたり、様々な事の中で文学の楽しさを体感できる様な幅広い活用方策といいますか、仕掛けを工夫して頂いて、一人で

も文学に、文学を愛するといいますか、文学を学んで自分の生き方に反映できる様なそんな人たちが増えればいいなと思います。人生が豊かになるような、そんなきっかけになる文学館活動になれば良いと思いました。ありがとうございました。

では、その他があるわけですが、その他で何か意見がありますか。

●Ｅ委員

二階のエントランスに吊し雛が展示してあります。この間、ちょっと新聞で拝見したのでどうなのかと興味を持って拝見しました。非常にホッコリするお人形さんで、あれでまたお客さんが来るのかなと思いましたが、ちょっと残念だなと思ったのが、せっかく文学館でやっているので、何か物語性のある展示にされた方が、より魅力があるのではないかと思いました。うさぎさんのお雛さんがたくさん並んでいて、ものは非常に良いのですが、ただ並んでいるだけなので、例えば御伽草子ではありませんけれども、何か文学に関わるようなストーリーを展示の中に持たせるとか、そういったものを題材にしてあそこを展示すれば、プラスアルファでもっと面白い展示になるのではないかと思いました。それから、先日ちょっと山口県へ出張で行って、中原中也の文学館へ寄ってきたのですが、展示品は普通なのですけれども、あそこでちょっとビックリしたのは中原中也の帽子を注文で販売していることをやっていまして、１つ２７，０００円もしたのでちょっと躊躇して買えなかったのですけれども、文学館でありながらそういうことまで発想しているというところは、非常にビックリしたところです。こちらの文学館は山梨県の関係者で色々おりますけれども、今、展示しているのは、ペーパーのものばかり、布のものもありますけれども、ちょっと発想を変えて、そういった身につけるものなどをされると、違った意味合いで魅力がプラスアルファされるのではないかという事を感じました。以上２点ちょっと話させて頂きました。

●会長（議長）

ありがとうございます。その他何かございますか。よろしいでしょうか。そういうことであればですね、１番、２番、３番の議事について、一括承認されたものとしてよろしいでしょうか。よろしければ拍手でお願いしたいと思います。

＜出席委員が、拍手をもって承認＞

●会長（議長）

ありがとうございます。以上で終わりたいと思います。今回もたくさんのご意見を頂きました。ありがとうございました。